

JUSE-QCS

第119回品質管理シンポジウム(119QCS)

2025. 6/5 Thu～6/7 Sat

<https://www.juse.jp/qcs/>



経営環境の変化に適応するためのTQMの進化 ～基本の最先端な実践とさらなる飛躍～

特別講演

栗原 聡
慶應義塾大学
理工学部 教授
人工知能学会 会長



基調講演
オリエンテーション

山田 秀
慶應義塾大学
理工学部 教授



講演I

安宅 和人
慶應義塾大学
環境情報学部 教授
LINE ヤフー(株)
シニアストラテジスト



講演II

日覺 昭廣
東レ(株)
代表取締役会長



講演III

井上 俊幸
三菱地所(株)
執行役員



講演IV

宮崎 知子
(株)陣屋
代表取締役 女将



趣旨



山田 秀氏

慶應義塾大学 教授
第119回
品質管理シンポジウム
担当組織委員

TQMの有効性の持続には、経営環境の変化に適応しTQMを進化させる必要があります。第119回QCSのグループディスカッションでは、このTQMの進化を議論します。様々な環境の変化の中で次のaからeを考え、どのようにTQMを変化に適応させ進化させ、具体的な理念、指針、方法として落とし込むことを目指します。

- a. 製品・サービスによる価値の受け手と経済的対価の担い手が一対一対応している場合には、この担い手を顧客として捉えるのが合理的でした。これに対して昨今は、経済的対価の流れと価値の流れが一対一対応しないビジネスモデルで成功しているものが多数あります。TQMの根幹たる顧客満足において、顧客をどのように定義、可視化、共有するかが課題になります。
- b. 経済的側面の良さだけでなく、環境、従業員、社会貢献など様々な側面の目標をバランスよく考慮し、社会から尊敬される企業を目指す必要があります。例えばSDGsの広まりは、経済的側面のみを強調することなく、多側面を考慮して社会の持続性を確保しようというものです。
- c. 働き方改革という旗印の根幹は、個人により何を重視するかが異なり、それを尊重することにあります。24時間バリバリ働くことだけが是ではなく、それぞれが望む働き方を実現する仕組みづくりが必要です。

これらのa, b, cが、目指すべき姿に関連する経営環境の変化です。その実現に関する変化として、次も考えます。

- d. 製品・サービスを通じた顧客、利害関係者、社会への価値提供のためには、自社や系列企業だけでできることに限りがあるので、多くの関係者の連携が必要になります。品質保証の担い手が自社のみならず多くの関係者との連携によりなされるので、昨日の敵は今日の友ともいべき状況になります。
- e. 情報技術の発展に伴い、様々なデータが活用できるようになりました。バリューチェーン全体でのデータ連携や、オープンデータ化により各種のデータが活用可能になっています。また生成AIをはじめ、様々な情報技術が開発されています。これらの有効な活用は、顧客を含む社会での価値提供の成否を握ります。

このような経営環境の変化を踏まえ、TQMをどのように進化させたらいでしょうか？例えば、データやAIの活用は実現手段ですので、標準化、改善などは今までと同じねらいを最先端な方法で実現することになります。また、多くのパートナーと連携しながらすすめる品質保証は、今までにはない新たな考え方、方法の開発が必要になります。サブタイトルの基本の最先端な実践とさらなる飛躍は、このような思いから来ています。品質に関する見識を持つ方々が、膝を突き合わせて議論すればなんらかの方向が見えてきて、具体的な理念、指針、方法として落とし込めると確信しています。これまでのTQMで、変えてはいけないもの、変えるべきものを導きましょう。

プログラム

開催期日：2025年6月5日(木)～6月7日(土)
会場：大磯プリンスホテル

※テーマ及びプログラムは変更になる場合があります。

※組織名・役職は2025年3月現在の表記になっております。

月日	時間	科目(講演テーマは仮)	講演者(敬称略)
6/5 (木)	19:00～20:10	〈特別講演〉進化を続けるAIの行く先～人とAIが共生する社会とは?～	栗原 聡 慶應義塾大学 理工学部 教授 人工知能学会 会長
	20:10～20:30	質疑・応答	
	20:30～22:00	GD(1)、談話室	
6/6 (金)	8:30～8:40	主催者挨拶	佐々木 真一 (一財)日本科学技術連盟 理事長
	8:40～9:25	〈基調講演〉〈オリエンテーション〉 経営環境の変化に適応するためのTQMの進化	山田 秀 慶應義塾大学 理工学部 教授 119QCS担当組織委員
	9:25～9:35	質疑・応答	
	9:35～9:40	入替(5分)	
	9:40～10:50	〈講演1〉残すに値する未来を考える(仮題)	安宅 和人 慶應義塾大学 環境情報学部 教授 LINEヤフー(株) シニアストラテジスト
	10:50～11:00	質疑・応答	
	11:00～11:10	休憩(10分)	
	11:10～12:20	〈講演2〉時流に迎合せず 時代に適合する一東レの経営方針と実践事例一	日覺 昭廣 東レ(株) 代表取締役会長
	12:20～12:30	質疑・応答	
	12:30～13:20	昼食休憩(50分)	
	13:20～13:30	日科技連事業紹介	日科技連
	13:30～14:15	〈講演3〉三菱地所の目指すまちづくりにおける「エリマネDX」とは	井上 俊幸 三菱地所(株) 執行役員
	14:15～14:25	質疑・応答	
	14:25～14:30	入替(5分)	
	14:30～15:15	〈講演4〉経営革新につながる働き方改革 ～DXと働き方改革により、「旅館を憧れの職業」に～(仮題)	宮崎 知子 (株)陣屋 代表取締役 女将
15:15～15:25	質疑・応答		
15:25～15:45	GD会場へ移動・休憩(20分)		
15:45～19:00	GD(2)		
19:00～19:15	休憩(15分)		
19:15～20:15	夕食		
20:15～21:30	談話室		
6/7 (土)	8:30～10:00	GD報告(10分×8班 ※予備10分)	司会: 山田 秀 報告: 各班リーダー
	10:00～10:15	休憩	
	10:15～11:35	総合討論	山田 秀 120QCS担当組織委員 永田 靖
	11:35～11:50	第119回 品質管理シンポジウム まとめ	
	11:50～12:00	次回(第120回)品質管理シンポジウム案内	
	12:00～	昼食・解散	

※GDはグループ討論の略です。

講演概要

6/5 (木) 特別講演

進化を続けるAIの行く先
～人とAIが共生する社会とは?～

栗原 聡 氏

慶應義塾大学 理工学部 教授
人工知能学会 会長



生成AIの登場はよくも悪くも世界に大きなインパクトを与えましたが、AIエージェントといった更なる進化がすでに始まっています。生成AIが登場した頃の「AIが仕事を奪う」といったネガティブな話題よりも、「いかにAIを活用することで経済を発展させるか」についての議論の方が目立つようになってきました。一方、AIを使い続けると、人への認識的負荷を低減させることで「人の思考能力を押し下げる」という気になる論文も発表されています。今後、加速的に進化するAIと我々はどうのように共生していくようになり、それは人間社会をどのように変容させていくのかについて考察します。

6/6 (金) 基調講演・オリエンテーション

経営環境の変化に適応するためのTQMの進化

山田 秀 氏

慶應義塾大学 理工学部 教授



品質管理活動は、戦後の導入以来その時々々の経営環境の変化に応じて進化してきました。黎明期にはインフラストラクチャも確保されない中、仕様への適合を目指し5S、QCサークル、標準化、SQC手法の活用、改善の組織的推進な様々な活動を生み出してきました。その後、仕様への適合が当たり前になり、多くの日本高品質な製品、サービスの提供による顧客満足度の獲得を目指し実現しました。特徴的なのは、全社的な品質管理活動としての推進であり、当時としては世界的に先進的な活動でした。本講演では、まずTQMの進化を経営環境の変化と紐付けながら振り返り、今の時代でも必要な活動を明確にします。次に、現在直面しているTQMに関連する経営環境の変化として、顧客の定義と可視化、バランスよい多側面の経営目標と組織的展開、働き方への希望の尊重、ビジネスパートナーとの連携、AIや横断的データの活用を紹介します。これらを踏まえ、TQMの進化の方向を考察します。

6/6 (金) 講演 I

残すに値する未来を考える(仮題)

安宅 和人 氏

慶應義塾大学 環境情報学部 教授
LINEヤフー(株) シニアストラテジスト



6/6 (金) 講演 II

時流に迎合せず 時代に適合する
一東レの経営方針と実践事例一

日覺 昭廣 氏

東レ(株) 代表取締役会長



東レグループは、「私たちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」という経営理念に基づき、社会の公器であるという考えの下、長期視点での研究技術開発、人を基本とする経営、現場主義を徹底し、日本的経営の良さを強みとしてグローバルに事業を展開しています。

大きく変化する社会、事業環境の中で、DX活用による効率化の推進やサステナブルな社会の実現に貢献する取り組みを積極的に進めることで、今後も基本に忠実に、変化を捉えて社会課題の解決に貢献する素材の開発を進めて社会の発展に貢献してまいります。

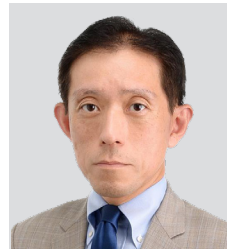
これら取り組みと実践事例についてご紹介します。

6/6 (金) 講演 III

三菱地所の目指すまちづくりにおける
「エリマネDX」とは

井上 俊幸 氏

三菱地所(株) 執行役員



三菱地所が大手町・丸の内・有楽町エリアを中心に進めるまちづくりにおいては、ビルなどの建物のみにとどまらず、公共空間やインフラも含めた一体的な将来像の実現に取り組んでいます。一体的にまちを運営する「エリアマネジメント」を高度化する手法として、都市OSというデータ基盤を構築して様々なサービスを提供する「エリマネDX」の活用を紹介します。

6/6 (金) 講演 IV

経営革新につながる働き方改革

～DXと働き方改革により、「旅館を憧れの職業」に～(仮題)

宮崎 知子 氏

(株)陣屋 代表取締役 女将



創業100年を超える老舗旅館の元湯陣屋。かつて10億円の負債と倒産の危機に直面したが、宮崎氏は夫と共に4代目女将として就任し、IT管理システムの開発や効率化により3倍の売上を達成。さらに週休3日制を導入し、驚きの働き方改革も実現した。当講演では、その取り組みとこれからの姿について語ります。

TQMの進化に求められるトップのリーダーシップ

高橋 勝彦(広島大学 大学院 先進理工系科学研究科 客員教授), 高倉 宏(トヨタ自動車九州㈱ TQM推進室 主査)

第1班

趣旨 常に変化し続ける経営環境に対応するため、あるいは積極的に変化を創造する組織能力を獲得するためのTQMの推進には、組織の構成員全体の参加が大前提であると同時に、構成員の理解や浸透を促すトップのリーダーシップが必要不可欠といえます。そのようなTQMにおいて、現在、経営環境に多くの関係者が含まれる、また経済だけでなく他の側面も重要となっているなどTQMの進化が求められています。経済的対価の担い手だけでなく社会全体を見渡し、顧客の満足の中核として活動するために、トップとしてどのようなリーダーシップを発揮すべきか、右記論点の全て、あるいはその一部に絞って議論します。

論点

- ① トップがリーダーシップを発揮しやすい環境、発揮しにくい環境とは何か。
- ② 組織が目指す方向についてトップが語る際、構成員が腑に落ちるメッセージの条件は何か。
- ③ トップの意思の浸透度合いは、トップ診断などにおいてどのように把握し対応するか。

企業の社会的価値の明確化とその展開、管理

佐野 雅隆(拓殖大学 商学部 教授), 増田 有希(㈱キャタラー 品質保証本部)

第2班

趣旨 例えば、SDGsはその目的、目標が具体的に定められており、企業における活用が進んでいます。他にも、気候変動やカーボンニュートラル、倫理的かつ持続可能なサプライチェーンなど、企業の社会的価値が多岐にわたっているのが現状です。TQMでは、方針管理により、目的や目標を決め、組織内を実践する運用力に強みを持ちます。そこで、第2班では、利益を追求する組織において、どのような苦勞をしながら社会的価値とのバランスをとっているかを共有したいと思います。例えば、組織内での温度差をどのように感じているか、持続的成功には必要だと理解しているも利益への短期的な悪影響がある中でどのように社内で位置づけているか、方針管理をどのように活用し、どのように変化させることが役立つと思われるかについても議論します。

論点

- ① 他の側面に関する経営目標について、利益とどのようにバランスを取るか。
- ② ①を、どのように言語化、可視化し、社内共有するか、推進上の悩みは何か。
- ③ TQMの強みである実力力、運用力をどのように活かすか。

AI時代に対応した、標準化・日常管理の在り方

泉井 一浩(京都大学 大学院 工学研究科 教授), 鈴木 浩佳(トヨタ自動車㈱ モノづくり開発統括部 主査)

第3班

趣旨 昨今のデジタル技術・データサイエンスの進展を背景に、AIは著しい進化を遂げています。特に生成AIの登場は、様々な業種の様々な日常業務を、根本から変えつつある状況です。そこで今回第3班では、働き方に対する個人の考え方の多様化を背景に、AIが日常業務をどのように変えるかについて、まず始めに考察します。続いて標準化・日常管理の役割や要点、すなわち変えてはいけないことについての認識合わせを行い、その上でAIにより変化する業務に対する日常管理の在り方について議論します。同時に日常管理自体をAIによって高度化する方法も検討します。日常管理は正常/異常の判断や改善になくてはならないTQM活動要素の一つです。その日常管理のAIによる進化、いわば、日常管理2.0について議論します。

論点

- ① AIは日常業務をどのように変えるか。
- ② 標準化・日常管理の意義や目的、変えてはいけないこととは何か。
- ③ AI時代の日常管理は、いかにあるべきか。

改善の組織的推進

村上 啓介(関西大学 商学部 教授), 尾本 勝彦(元パナソニック㈱ 品質・環境本部 本部長)

第4班

趣旨 我々を取巻く『情報』に纏わる環境は量・質ともに大きく変化してきており、これらの膨大なデータや生成AIのツール等を効果的に活用して、現状の社会や企業の抱える課題に素早く目を付けて改善していく事が望まれています。第4班では、これらの大量のデータ、プロセスを繋ぐデータ、等の様々なデータの活用、また生成AIをはじめとする様々なツール等を用いて、現状の課題改善にどう組織的に対応していくか、について議論したいと思います。また、TQM推進の方法についても上記視点で新たに変化させる点があるか、その具体的な提言も含めて皆様と議論したいと思います。

論点

- ① 改善活動やプロジェクト活動に於いて、AIや膨大なデータ等をどう活用するか。
- ② 働き方の多様性を尊重し、どうQCC(小集団改善活動)を進めていくか。
- ③ ビジネスパートナーと連携するプロジェクトをどの様に推進するか。

品質保証体系

森田 浩(大阪大学 大学院 情報科学研究科 教授), 明石 邦彦(日本精工㈱ 理事)

第5班

趣旨 経営環境の変化に適応するには、プロセスや顧客を含むバリューチェーン全体で収集されるデータを積極的に活用する必要があります。また、新たな価値創造を進めるには、自社あるいは同一業種だけでなく、異なる業種を含んだ多くのビジネスパートナーとの共創が求められることもあります。多くのパートナーと連携しながら進める際に求められる品質保証体系では、今までにない新たな考え方や方法が何かを明確化することが課題となります。

論点

- ① 顧客を含んだバリューチェーン全体で必要となるデータは何か。
- ② マーケティングとアフターサービスを含めた品質保証体系をどう構築するか。
- ③ 異なる業種や同一業種のビジネスパートナーとの共創により新たな価値創造を進める際、どのような品質保証体系にすべきか。

第三者認証、評価制度の活用

金子 雅明(東海大学 情報通信学部 教授), 野上 真裕(㈱TMJ 企業価値創造PJ 担当部長)

第6班

趣旨 ISO 9001を始めとしたマネジメントシステム(MS)に関する第三者認証、評価制度が開始されて35年以上経過し、日本においても広く普及しています。一方で、認証取得のみが目的化して活動が形骸化しているなど、MS認証の有効活用が十分にできていないことが指摘されています。また、2024年2月に気候変動に関する考慮が求められる追加版が発行され、時代の要請に対してISO規格が変わりつつあります。MS認証を活用する企業においても、経営環境や顧客・その他の利害関係者からのニーズ・期待が大きく変化しています。第6班では、企業がこれら変化に適切に対応するためにMS認証を如何に活用すべし、そのために何をすべきかを明らかにします。

論点

- MS認証を活用する企業の立場から、次の3つの論点を議論する。
- ① 現状、ISO 9001などのMS規格を十分に有効活用できているか? できていないのであれば、何が課題で、それをどう克服すべきか。
 - ② 経営や社会環境の変化に対応するために、MS認証をどのように活用すべきか。
 - ③ MS認証、評価制度に将来期待することは何か。

TQMにおける人材育成の変化

木内 正光(玉川大学 経営学部 国際経営学科 教授), 沢 茂樹(㈱リコー 品質統括センター QM推進室 エキスパート)

第7班

趣旨 近年、顧客ニーズの多様化に伴い、専門性の高い企業同士が連携してサプライチェーンを構築し、製品やサービスを提供しています。品質保証は企業内だけでなく、連携企業の技術水準も含めた幅広い知識が要求されており、企業のTQMを運用する上では、ステークホルダーにも目を向けなければなりません。また、生成AIや働き方など、事業環境の変化についても察知し、対応できる人材の育成が急務となります。

このような状況の中、第7班ではTQMにおいて求められる人材をテーマとします。具体的には、上記のような社会的な変化に対するTQMを運用できる人材として求められる能力について、変化不要のものや新たに育む必要があるものを明らかにします。さらに、一人ひとりの働き方を尊重した上で、求められる能力が育成できる仕組みを議論します。

論点

- ① バリューチェーン全体を俯瞰し、パートナー連携を適切に進めるために、どのような人材が求められるか。
- ② 従来のTQMにおける人材育成から不変のもの、変えるべきものは何か。
- ③ パートナー連携にデータ活用やAIを有効に活用できる人材を、働き方の自由度も取り入れながら育むには、どのような仕組みが必要か。

個々の働き方に関する希望の尊重

鈴木 知道(東京理科大学 創域理工学部 経営システム工学科 教授), 野村 哲史(日本電気㈱ 品質統括部 ディレクター)

第8班

趣旨 日本が直面する「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」、「働く方々のニーズの多様化」などの経営環境の変化課題に対応するためには、投資やイノベーションによる生産性向上とともに、就業機会の拡大や意欲・能力を存分に発揮できる環境をつくる必要があります。そのため、働き方改革という旗印の根幹は、個人により何を重視するかが異なり、それを尊重することにあります。TQMの全社の方針のもとで業務効率化につなげるために、組織全体の業務と個々の働き方とのバランスが重要になってきます。第8班では、実際の企業の職場で、個々の働き方に関する希望を尊重した上でTQMをどのように推進するのがよいのかに着目し議論します。

論点

- ① 個人の働き方に関する希望を尊重した上で、TQM活動を行う際の課題は何か。
- ② 個々の働き方に関する希望を尊重した上で、QCサークルなど小集団活動をはじめとするTQM活動をどのように推進するか。
- ③ 個々の働き方に関する希望を尊重したTQM活動にするために、AIや情報技術などをどのように活用したらよいか。

品質管理シンポジウム会員にご入会ください！

※QCSは会員のみが参加できるシンポジウムです。

メリット1 講演（トップランナー企業）から、TQMの推進・動機づけに役立つ情報が得られます。

メリット2 グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。

メリット3 参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員:1口につき年額221,100円(税込み) 団体会員:1口につき年額128,700円(税込み)

入会いただきますと

- 企業会員：無料参加枠2名(トップ枠・通常枠)を確保できます。
- 団体会員：無料参加枠1名(通常枠)を確保できます。
- 無料参加枠以外の方は特別価格(57,200円・税込み)でご参加いただけます。
- 本シンポジウムの報文集・実施報告が無料で入手できます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS独自の会員制度です。ご入会は随時受付けております。

品質管理シンポジウム 会員企業・団体

※2025年2月現在 五十音順 132社

1 アート金属工業(株)	36 小林製薬(株)	68 中国化薬(株)	101(株)羽生田製作所
2(株)アーレスティ	37(株)小松製作所	69(株)千代田グラビヤ	102 日立 Astemo(株)
3(株)IHI	38(株)コロナ	70 DMG 森精機(株)	103(株)日立製作所
4(株)アイシン	39 サンデン(株)	71(株)テクノプロ テクノプロ・ デザイン社	104 日野自動車(株)
5 アイシン機工(株)	40(株)シーヴィテック	72(株)デンソー	105 ヒロセ電機(株)
6 アイシン軽金属(株)	41(株)GS ユアサ	73(株)東海理化	106 富士フィルム ビジネスイノベーション(株)
7 アイシンシロキ(株)	42(株)ジーシー	74(株)東陽テクニカ	107 富士フィルム マニュファクチャリング(株)
8 愛知製鋼(株)	43(株)ジーシーデンタルプロダクツ	75 東レ(株)	108 富士電機(株)
9 アイホン(株)	44 JFEスチール(株)	76 TOTO(株)	109 フジミエ研(株)
10(株)青山製作所	45(株)ジェイテクト	77(一社)富山県経営者協会	110 フタバ産業(株)
11 旭化成(株)	46(株)ジェイテクトエレクトロニクス	78 トヨタ自動車(株)	111(株)ブリヂストン
12(株)EARTHRAIN	47(株)ジェイテクト グラインディングツール	79 トヨタ自動車九州(株)	112 べんてる(株)
13(株)麻生	48(株)ジェイテクトサーモシステム	80 トヨタ自動車北海道(株)	113(株)保志
14(株)アドヴィックス	49 芝浦機械(株)	81(株)豊田自動織機	114 本田技研工業(株)
15(株)イシダ	50 清水建設(株)	82 トヨタ車体(株)	115 前田建設工業(株)
16 AGC(株)	51 JUKI(株)	83 トヨタ紡織(株)	116(株)前田製作所
17 NECプラットフォームズ(株)	52(株)新川	84 トヨタ紡織滋賀(株)	117 マツダ(株)
18(株)荏原製作所	53 Sky(株)	85 トヨタホーム(株)	118(株)マルヤスエンジニアリング
19(株)FTS	54(株)SUBARU	86 ドリームベッド(株)	119 三島食品(株)
20 エムエスシーソフトウェア(株)	55 住友理工(株)	87 長津工業(株)	120 三菱電機(株)
21(株)MCシステムズ	56 関工業(株)	88(株)ニコン	121(株)村田製作所
22 エリーパワー(株)	57 積水化学工業(株)	89 西田精機(株)	122(株)メイドー
23 大塚化学(株)	58(株)セキソー	90 日華化学(株)	123 名北工業(株)
24 オークマ(株)	59 ソニーセミコンダクタ ソリューションズ(株)	91(株)日科技連出版社	124 安川オートメーション・ドライブ(株)
25(株)オティックス	60 ダイキン工業(株)	92 日産自動車(株)	125 安川コントロール(株)
26 オムロン(株)	61 ダイハツ工業(株)	93 日産車体(株)	126(株)安川電機
27 花王(株)	62 ダイハツディーゼル(株)	94 日本精工(株)	127 UBE(株)
28 鹿島建設(株)	63 大豊精機(株)	95 日本電気(株)	128 ユーロフィンFQL(株)
29(有)企画システムコンサルティング	64 ダイヤモンドエレクトリック ホールディングス(株)	96(株)日本科学技術研修所	129(株)ユニバンス
30(株)キャタラー	65 ダイヤモンド電子(株)	97 日本商工会議所	130 楽天グループ(株)
31 京西テクノス(株)	66 大和リース(株)	98 日本特殊陶業(株)	131(株)リコー
32(株)神戸製鋼所	67(株)竹中工務店	99 パナソニックホールディングス(株)	132 その他団体(1社)
33 コーセル(株)		100 パナソニック オペレーショナル エクセレンス(株)	
34 小島プレス工業(株)			
35 コニカミノルタ(株)			

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略)

※組織名・役職は2025年3月現在の表記になっております。



田熊 範孝

日本電気(株)
執行役
Corporate EVP 兼
CSCO



永田 靖

早稲田大学
教授



宮本 眞志

トヨタ自動車(株)
カスタマーファースト
推進本部長



棟近 雅彦

早稲田大学
教授



森 雅彦

DMG森精機(株)
代表取締役社長



山田 秀

慶應義塾大学
教授

※品質管理シンポジウム(QCS)は、上記組織委員が持ち回りで各回QCSの主担当を務めます。

最近の主な講演者

※組織名・役職は講演当時の表記になっております。

第 118 回



鎌田浩毅 氏

京都大学
名誉教授

第 117 回



木目田 裕 氏

西村あさひ法律事務所・
外国法共同事業
弁護士

第 116 回



桜井 博志 氏

旭酒造(株)
会長

第 115 回



増本 陽秀 氏

(株)麻生 飯塚病院
院長

第 114 回



藤井 保文 氏

(株)ビービット
執行役員CCO
東アジア営業責任者

第 113 回



長谷部 佳宏 氏

花王(株)
代表取締役
社長執行役員

第 112 回



津賀 一宏 氏

パナソニック(株)
取締役会長

参加要領

※詳細は、WEBサイト掲載の「開催要領」をご確認ください。

主 催 一般財団法人 日本科学技術連盟

後 援 一般社団法人 日本品質管理学会

開催日時 2025年6月5日(木) 19:00~6月7日(土) 12:00(6月5日受付開始 16:00~、夕食 17:30~)

会 場 **大磯プリンスホテル** 〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546
TEL: 0463-61-1111 FAX: 0463-61-6281

参加対象 企業の役員、上級管理職の方々他

※今回のシンポジウムテーマ、グループ討論に深く関係のある部門とその役割を担う方々のご参加については是非ご検討をお願いいたします。

参加方法 集合参加 現地(大磯プリンスホテル)にて、シンポジウム全プログラムにご参加可能です。

ライブ視聴参加 PC等で、特別講演(1日目)、基調講演・講演1~4(2日目)、GD報告・総合討論(3日目)をご視聴いただけます。許諾のある講演のみシンポジウム終了後の特定期間限定で「見逃し配信」もご視聴いただけます。

特記: 1.ライブ視聴参加の場合は、GDへはご参加いただけません。

2.ライブ配信、見逃し配信の配信プラットフォーム、推奨環境はWEBサイトをご確認ください。

参加費(税込) QCS企業会員・団体会員 参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・一般枠の2名分、団体会員は通常枠1名分、の無料枠をご利用いただけます。※トップ枠をご利用されない場合、無料枠は「通常枠(1名分)」のみ。無料枠以外の参加は、参加方法にかかわらず、57,200円/1人の参加費を申し受けます。

一般参加 ライブ視聴参加のみ(132,000円/1人)

団体参加(ライブ視聴参加のみ) シンポジウムの各講演、GD報告・総合討論を多くの経営幹部の方々に参加(視聴)いただく場合にご利用しやすい参加形態です。

50名まで 550,000円、51~100名まで 880,000円、101~200名 1,100,000円、201名以上 要問合せ

参加費の請求書は、お申込み時のご連絡担当者様宛にEメール(PDF)にてお送りいたします。

その他 集合参加の付帯費用
・別途、大磯プリンスホテルでの宿泊費がかかります。
・宿泊費の請求書は、株式会社ジャパトラよりお申込み時のご連絡担当者様宛にEメール(PDF)にてお送りいたします。
・食事代(6月5日夕、6月6日朝・昼・夕、6月7日朝・昼)は参加費・宿泊費に含まれております。
・会場までの交通費はご自弁ください。

シンポジウム
申込方法

QCS専用Webサイトからお申し込みください。

お申込みはこちらから <https://www.juse.jp/qcs/app/>

集合参加一次申込期日: 4月14日(月)

※会場定員を設定しています。一次申込期限前であっても、定員に達した場合は締め切らせていただくことがありますので、お早めにお申し込みください。

・集合参加一次申込締め切り後、会場定員に空きがあった場合は、引続き二次申込を実施します。

・ライブ視聴参加の申込締切は、5月15日(木)とさせていただきます。

お申込み
QRコード



シンポジウムに関する
問い合わせ先

一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当
〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビルディング4階
TEL: 03-5990-5846 E-mail: qcs@juse.or.jp

宿泊に関する
問い合わせ先

株式会社ジャパトラ QCデスク 担当: 柏木・鶴川・西森
〒161-0033 東京都新宿区下落合3-21-1 NKフジビル8階
TEL: 03-6915-3646 E-mail: qcdesk@japatra.co.jp